

『神様のカルテ』（夏川 草介／著）

八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 小西 ゆりあ

どうやら今宵も眠れぬらしい。これは、ある内科医の物語である。ただぼんやりと「医者になりたい」と考えたことはないであろうか。私はある。少なくともこの本を読むまでは。この本は、私に医者という仕事は寝る間もないほど忙しく、患者の命を背負う責任の重い仕事であることを教えてくれた。この本で描かれている内科医は少しひねくれているが人情味があり、あたたかい。その姿を見ているうちに、私の中の医者になりたいという漠然とした考えが自分の強い意思に変わっていった。私は特にこの本を、医療関係の仕事に就きたいと考えている人に薦めたい。きっと私のように、背中を押してくれた大切な一冊になるはずだから。

『サンドイッチクラブ』（長江 優子／著）

十和田市立東中学校 1年 柏木 菜々莉

「うん、なりたい自分が変われるよ。あたしはそう信じてる。そうでなくちゃ今を生きる意味なんてないよ。」この本は、ある出来事をきっかけに出会った、珠子とヒカルが砂像というものを通してお互いに成長する友情と青春を描いた物語。私は怒られて、自分の部屋で泣いたとき、「ずっとこのまま？一生変わらない？」そう考えて心が負けそうになっていたときにこの本を読んだ。まるで「私に言ってるの？」と思うほど、その時の私にピッタリな言葉ばかり。私は励まされた気がして、「頑張ってみよう」と思うことができた。だからこの本は、頑張っても中々うまくいかず、挫けそうになっているあなたに薦めたい。「頑張ろう」そう思っしてほしい。

『52ヘルツのクジラたち』（町田 そのこ／著）

八戸市立下長中学校 3年 小笠原 楓乃

「52ヘルツのクジラ」とは、あまりにも高い声で鳴くために、仲間から気付いてもらえないという実在する世界—孤独な生き物だ。私は52ヘルツで訴えるほどの辛い経験をしたことはない。たとえもしこれからそのようなことがあっても、私にはその声に気付いてくれる家族や友人がいる。しかし世の中には、今この瞬間も、届かない声を上げている人々がいるのだと、この本に気付かされた。毎晩孤独に喰われながら、真っ黒な夜を過ごしている人もいるのだと。だから、恵まれた環境にいる私がすべきことは、52ヘルツの叫びに気づき、そして耳を傾けることだと思う。この本を多くの人を読み、孤独なクジラたちが1人でも多く救われることを願っている。

『彼女が好きなものはホモであって僕ではない』(浅原 ナオト/著)

七戸町立七戸中学校 1年 竹内 莞那

あなたの長所・短所は何ですか?そう問われた時、真っ先に私は短所を答えるはずだ。なぜそう思うか。その答えは私も分からなかったが、多分自分の事が好きではないからだと片付けた。実際、困り事がなさそうな子を羨ましいと思うし、それに比べ失敗続きで努力もしない自分に嫌気がさす。でも、この一冊でそれが自分だと受け止めようと思った。いや、正しくは「こんな自分を認めたくないから変わろうと決心した」だ。なにせ私は確かに、この本に言われたんだ。目指すものも求めるものも、悩みだって人それぞれで、だから本当に理解してくれるの自分だけだ。そんな最高の理解者が自分を助けなくちゃどうなるの?って。

『青春ゲシュタルト崩壊』(丸井 とまと/著)

東北町立東北中学校 2年 山田 怜奈

きっとだれもが、自分は思ってもないことを他人に合わせてしまう、そんな自分がいやになるということがあるのだと思います。私もそうでした。小学生の時には優しくいること＝なんでも聞いてあげることだと思っていました。そのせいでなんで優しくしているはずなのに自分には何もないんだろうかと泣く毎日でした。この本を読んで、「私たちは学校という狭い水槽の中で、流れるように日々を泳ぎ続けている」という言葉にひかれました。優しさばかりに執着していたんだなと気付かされます。もし自分が分からなくなったら、この本を読んでほしいです。心が軽くなる、勇気を持てるお話です。あなたも自分を大切にしてほしいと心から思います。

『父へ母へ。100万回の「ありがとう」』(PHP 編集部編)

弘前市立津軽中学校 1年 石田 妃時

私は帝王切開で生まれました。生まれる時に首にへその緒が巻きつき、窒息状態になり、私は仮死状態だったそうです。このままでは危険だということで手術することになったそうです。しかし、麻酔もあまりきかず、大変な手術になったそうです。私は初めてこの話を聞いた時、今、普通に学校生活を楽しんでいることに感謝しました。そして、無事に産んでくれた母に感謝の気持ちでいっぱいになりました。誰しも誰かに対する感謝の気持ちがあります。この本にはそんな「ありがとう」がたくさんつまっています。この本を読み、日頃伝えきれていない気持ちを感じ、周りの人へ感謝の気持ちを伝えませんか。

### 『トリプル・ゼロの算数事件簿』(向井 湘吾/著)

八戸市立湊中学校 2年 松長 瞭

「算数を使って学校での様々な問題を解決する」。どういうことだ。いったいどうやって解決するというのだ。僕は、算数はテストで評価を決めたり、買い物で値段を計算するときなどにしか使わないと思っていた。しかし、この本では、算数の内容を応用させてたくさんの事件や問題を解決している。僕は今までに考えたことのないような算数の使い方を知った。この本を読んで、算数を使えば、本当にどんな問題でも解決できるかもしれないと感じた。この本は、発想を広げればいろいろなことができるという事を教えてくれる。算数の無限大の可能性を教えてくれるこの本を読んで、算数の面白さを知ってほしい。

### 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』(遠藤 和/著)

青森市立南中学校 1年 奥平 虹来

「ありがとう、愛してる。」これは、和さんが最後に旦那さんに涙を流しながら残した思いのこもった言葉。和さんの旦那さんとお子さんに残したたくさんの思いがこの一文で体全体に伝わった。この本から私はどれだけ勇気・希望をもらっただろうか。この本では一日一日を大切に生きる和さんの一生懸命な思いがとても伝わってくる。一生懸命生きるには、たくさんの勇気が必要だ。簡単なことではない。けれど、感じる事がたくさんあるということは、あなたが一生懸命生きている証だと私は思う。勇気や希望をもって一日を大切にすることを世界に届けるこの本を、今あなたに。

### 『天気の子』(新海 誠/著)

青森市立南中学校 1年 安田 咲希

主人公の帆高は、バイトで晴れ女をさがすことになり、ふしぎな力をもった陽菜に出会った。帆高と陽菜が人々の願いを叶えていく物語である。私は、陽菜の自分の特技を生かして、人々を笑顔にしているというのにあこがれを持った。人と比べたりしなくても、自分ができることをすればいいのだと元気づけられた。私は、勉強ができる人と比べてしまう。なんで他の子はできるのに私はできないのかと自信がなくなっていた。その時に、この本に出会って、とらえ方が変わった。自分ができることを精一杯やろうと思った。とらえ方が変わるこの本を、今あなたに薦めたい。